

# 備蓄意識高めよ

## 非常食 3市町と協定締結 推進機構

熊野市と御浜、紀宝町は26日、社団法人日本非常食推進機構(J

EFO)と「災害救助に必要な物資の調達と普及啓発に関する協定」

を締結した。同機構からは各市町に非常食など災害用物資が入った「白い小箱」各300個が配布される。

同機構では自助、共助、公助連携で助け合いの社会創りを目指し「白い小箱運動」を展開。行政の支援を一切受けずに県内でのキャラバン活動を通じた小箱の無料配布を行い、住民らの危機意識向上や持続性を図っている。

市長、古川弘典御浜町長、西田健紀紀宝町と同機構の古谷賢治代表理事、仲立ちをした熊野県民センターの吉仲繁樹所長が出席した。調印を行い、河上市長らは「大変ありがた

い。協定を通じて住民の方々の備蓄意識高揚や、取組が広がるよう協力して行きたい」と語り、古谷代表理事も「一回限りではなく数年続けたい。住民の備蓄意識の底上げに務めたい」と述べた。小箱には非常食やアルミ防寒シート、ブドウ糖、飲料水2リットル尿取りパット、ポケットティッシュなどが入っており、同機構ではすでに県内10市町と同様の協定を結んでいる。御浜町では協定より一足早く、去る11月の敬老会でお年寄りに「白い小箱」が配布された。



【備蓄等に関する協定を結んだ首長や古谷代表理事(中央)ら】

今回の協定は「白い小箱」を住民に無料配布し、大規模災害の発生に備え各家庭で非常食の備蓄を進めてもらう目的。河上敢二熊野